

令和5度「文化芸術による子供育成推進事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	C区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しても、複数の企画を実施可能
--------------------	--------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	ゆうげんがいしゃしょーまんしゅぷ 有限会社ショーマンシップ		団体ウェブサイトURL https://www.showman.jp/
	代表取締役・氏名 代表取締役・仲谷一志		
制作団体所在地	〒 810-0063	最寄り駅(バス停)	唐人町駅(福岡市地下鉄)
	福岡県福岡市中央区唐人町1-10-1カランドパーク203		
電話番号	092-716-3175		
ふりがな 公演団体名	げきだんしょーまんしゅぷ 劇団ショーマンシップ		団体ウェブサイトURL https://www.showman.jp/
	代表取締役・氏名 座長・仲谷一志		
公演団体所在地	〒 810-0063	最寄り駅(バス停)	唐人町駅(福岡市地下鉄)
	福岡県福岡市中央区唐人町1-10-1カランドパーク203		
制作団体 設立年月	1994年10月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	代表取締役 仲谷一志 取締役 市岡洋・生田晃二 企画制作部長 宮崎果林		役員:3名 制作スタッフ4名 役者15名 【加入条件】毎年オーディションを行い、劇団理念に適合する優秀な人材のみ加入可能。
事務体制 (専任担当の有無)	専任の事務担当者を置く	本事業担当者名	宮崎果林
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	田村真理

<p>制作団体沿革</p>	<p>平成6年10月 「劇団ショーマンシップ」設立。 平成11年2月 「有限会社ショーマンシップ」として法人化。 平成12年4月 「唐人町商店街(福岡市中央区)」に拠点を移し「甘棠館Show劇場(客席84席)」の運営を始める。 平成16年4月 「日本児童・青少年演劇劇団協同組合」に加盟。 平成21年4月 「ユメニティのおがた(福岡県直方市)」とレジデンスカンパニー契約を結ぶ。毎年、劇場公演・直方市内の小学校でのアウトリーチ事業を始める。</p>				
<p>学校等における公演実績</p>	<p>平成14年度より学校公演実績あり 累計 約800公演</p> <p>(直近)</p> <p>平成30年度 「ノートルダム物語」 4校 「生きろ！～十五少年漂流記より～」 4校 「ないた赤おに」 16校 「九州の民話めぐり」 1校 「インプロショー」 2校 「カラカラ王子とびちゃびちゃ姫」 30園 計:57公演</p> <p>令和元年度 「ノートルダム物語」4校 「生きろ！～十五少年漂流記より～」11校 「ないた赤おに」19校 「砂漠の王子の冒険」5校 「インプロショー」2校 計:41公演</p> <p>令和2年度 「ノートルダム物語」1校 「ないた赤おに」6校 「砂漠の王子の冒険」1校 計:6公演</p> <p>令和3年度 「ノートルダム物語」14校 「生きろ！～十五少年漂流記より～」5校 「ないた赤おに」23校 計:32公演</p>				
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>平成18年度 「なりきりオウムとほりきりサーカス団」 福岡県立福岡聴覚特別学校 平成18年度 「ないた赤おに」 福岡県立筑後特別支援学校 平成19年度 「なりきりオウムとほりきりサーカス団」 福岡県立田主丸特別支援学校 平成20年度 「なりきりオウムとほりきりサーカス団」 福岡県立川崎養護学校 平成21年度 「ないた赤おに」 福岡県立小郡特別支援学校 平成21年度 「ないた赤おに」 福岡県立特別支援学校「福岡高等学園」 平成22年度 「笑劇！黒田騒動」 特別支援学校「北九州高等学園」 平成23年度 「ノートルダム物語」 大分県立宇佐支援学校 平成24年度 「ノートルダム物語」 滋賀県立草津養護学校 平成24年度 「ノートルダム物語」 三重県立豊学校 平成26年度 「ないた赤おに」 福岡県立直方養護学校 平成30年度 「ないた赤おに」 福岡県立小郡特別支援学校 令和元年度「ないた赤おに」福岡県立南福岡特別支援学校</p>				
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>			
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://www.youtube.com/watch?v=uuaXalMtmLY</p>			
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<table border="1"> <tr> <td>ID:</td> <td></td> </tr> <tr> <td>PW:</td> <td></td> </tr> </table>	ID:		PW:
ID:					
PW:					

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 劇団ショーマンシップ 】

対象	小学生(低学年)	○		
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生			
企画名	笑って！泣いて！心揺さぶる物語を子供たちへ「ないた赤おに」			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	演目	ないた赤おに		
	原作	浜田廣介		
	脚色・演出	仲谷一志		
	音楽	山浦弘志		
	振付	近藤勇人		
	制作総指揮	仲谷一志		
	公演時間 60 分			
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名	原作の著作権
	該当事項がある場合	権利者名 日本文藝家協会	許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済
演目概要	『日本のアンデルセン』『日本児童文学会の三種の神器』と呼ばれた浜田廣介の原作に忠実な物語。原作の持つ言葉のリズムを活かし、オリジナルの歌とダンスにて演出。鬼の衣装や舞台装置など、視覚的な要素の芸術性が高い。			
演目選択理由	『友情』や『思いやり』というテーマと共に、将来子供たちが直面するであろう『社会矛盾』までも感じさせる本作品は上演後「教室」や「家庭」での「語り」のテーマになり得る。また、喜劇仕立てであり、ミュージカル仕立てである本作品は、「笑い」「涙」「感動」という舞台の魅力を堪能できる。さらに「黒子」の存在をクローズアップしたオープニング、舞台転換をあえて見せるなど、「日本」の伝統芸能を意識した創りの本作品の鑑賞は、本事業の目的である「将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上」につながる。			
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	開催校の演劇に興味のある出演希望者4～10名との共演。 ワークショップ・当日リハーサルを経て、俳優と同じように衣装・メイク(こちらで準備)をして、本番に出演。 1) 赤おにの家に行くシーンで「村人役」として出演。 2) 「お祭り」シーンの舞台への出演。 「お祭り」シーンの歌『お祭り気分』は全児童と役者が一体となり、唄・踊り・ボディパーカッションで共演。 (ワークショップ・当日の オープニングアクトで指導)			
出演者	赤おに : 田中 直 青おに : 大和屋満福 語り : 井上璃恵 与作 : 進藤祐行 喜作 : 宝伊謙斗			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 5 名 スタッフ: 1 名 合計: 6 名	運搬	積載量: 2 t 車長: 5 m 台数: 1 台	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		無		前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去	退出	
	9時	9時～12時30分		13時30～14時30分	0分	14時40分～15時50分	15時50分	
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。								
本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月			
	15日	0日	0日	14日	16日			
	11月	12月	1月	計	92日			
	18日	15日	14日					
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。								
児童・生徒の 参加可能人数	本公演			共演人数目安		4名～10名		
				鑑賞人数目安		～300名		



(図1) 舞台の設置状態。

体育館のステージにて舞台を組みます
舞台設置に必要な面積
横：7.2m以上 奥行：3.6m以上
客席の真ん中に花道をつくります。



(あらすじ)

山の崖に住む「赤おに」は、村の人たちと仲良くなりたいと思っていました。ところが、人間たちは怖がって「赤おに」には近づいてきません。そこで「赤おに」は、『ココロノヤサシイ オニノウチデス。ドナタデモ オイデクダサイ。オイシイ オカシガ ゴザイマス。オチャモ ワカシテ ゴザイマス。』と立て札を立てました。それでも人間は「赤おに」がだましているのだと思い、近づいてきません。「赤おに」はとても悲しみその立て札を壊してしまいました。すると、ひょっこり友達の「青おに」が遊びにやってきました。そして人間たちと仲良くなれる方法があると言うのですが・・・。



(図2・3) 上演の様子

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出や
がわかる写真)

※採択決定後、採
択団体へ図面等詳
細の提出をお願い
します。

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	～300名
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>①『インプロゲームを使ったアイスブレイク』 インプロゲームにて緊張感のある心のリラックスを図る。</p> <p>②『出演俳優による、原作「泣いた赤おに」の一部を読み聞かせ』 原作の紹介と浜田廣介の紹介 その後、語り役による絵本の読み聞かせを行い、心に残ったシーンの発表をしてもらう。</p> <p>③ 歌とボディーパーカッションの指導。 劇中、赤おにが村人と仲良くなったシーンにて踊る「お祭り気分」の振付を指導。 本番では子供たちも一緒に踊る。 (事前に学校に「お祭り気分」の音源を送付。)</p> <p>④ 作ってみよう！舞台セット！ 黒板シートを貼った草木パネルに、②の「読み聞かせ」からイメージした「おに」の住む森の絵を描く。 完成したパネルは、本番の舞台セットとして使用。</p> <div data-bbox="486 898 995 1227" data-label="Image"> </div> <p>(図4) 完成した草木パネル</p>		
<p>ワークショップの ねらい</p>	<p>プロの俳優による読み聞かせで、「言葉による表現の魅力」「日本語の魅力」に気付くきっかけを作り、感想を発表することで子供たちの表現力・想像力の向上を図る。 複数の子供たちで創作するボディーパーカッションは、発想力やコミュニケーション能力の育成に繋がる。 「語り役」が、ワークショップのファシリテーターとしても『児童』と近い距離をとることで、より作品を身近に感じテーマが伝わりやすくなる。 また、舞台セットの一部(パネル)に絵を描き、それを本番で使用することにより、子供たちが「創る楽しさ」を体験する。</p>		
<p>その他ワークショップに 関する特記事項等</p>	<div data-bbox="443 1641 774 1854" data-label="Image"> </div> <p>(図5) 振付指導の様子</p> <div data-bbox="826 1641 1141 1854" data-label="Image"> </div> <p>(図6) パネルにイラストを描いている様子</p>		

C区分で事業を実施するに当たっての工夫

【公演団体名

劇団ショーマンシップ

】

C区分で事業を
実施するに当たっての工
夫

i) 離島・へき地等における公演実績

平成17年度 から公演実績あり。 累計:21公演

(直近)

令和4年度「ないた赤おに」

西之表市立上西小学校、西之表市立下西小学校、屋久島町立安房小学校、
屋久島町立神山小学校、五木村立五木中学校、平戸市立田助小学校、
松浦市立福島養源小学校、小郡市立立石小学校、小林市立永久津小学校
大分市立川添小学校、大分市立植田小学校、佐伯市立木立小学校、
洲本市立安乎小学校、たつの市立半田小学校

ii) 離島やへき地等の地理的に特殊な事情がある地域で実施する上での工夫や、小規模な公演

《特殊な事情がある地域での実施にあたっての工夫》

本作品「ないた赤おに」の舞台装置は主に「置きパネル」を使用している。

仕込み、搬出は早く、最低限の道具での公演が可能なので特殊な事情がある地域でも対応できる。それでも会場の事情や運搬の事情で問題が生じる場合は、「布の書き割り」の使用や、学校に設置されているものを利用しての演出も工夫する。

また、天候、気候も含めて事前に学校側との打ち合わせを綿密に行い、公演及びワークショップをスムーズに実施する。

《質を保つための工夫》

本作品「ないた赤おに」は、これまでも出演者5人とスタッフ1名という編成で約300ステージ上演してきた経験があり、あらゆる環境の中でも対応してきた実績がある。小班編成では削減されることの多い「照明演出」だが、本作は「音響」も「照明」も兼任できるエキスパートが帯同し離島やへき地の子供たちにも「照明演出」が施された舞台を提供する。

iii) C区分申請における、小規模な公演の観点から実施する経費削減等についての工夫

交通費、運搬費が削減できるように舞台装置をコンパクトに収納できる組み立て式・起きパネルを使用し、車両1台で移動する。

音響・照明・舞台監督を一人で行えるエキスパートスタッフが帯同し人件費及び宿泊費等を削減している。

また、ワークショップと公演を同日に行うことにより、交通費・宿泊費を削減出来る。